

港湾整備推進調査特別委員会 提 言

目次

I	はじめに	1
II	提言に向けての考え方 (四日市港の将来像について)	2
III	提言	
	1. 地域とともに発展する四日市港へ	3
	2. ヒトが集まる四日市港へ	5
	3. モノが集まる四日市港へ	7

●委員名簿

平成30年3月29日

I はじめに

四方を海に囲まれた日本において、港湾は海上輸送と陸上輸送の結節点として物流や人流を支える交通基盤であるとともに、市街地に隣接している港は人々にやすらぎ・賑わいを与える空間として地域で重要な役割を果たしてきたところである。

しかし、コンテナ船の大型化による寄港地の絞り込み、アジアにおけるクルーズ需要の爆発的増加といった国際的な情勢や、人口減少や労働力不足による企業同士の連携、船舶・鉄道へのモーダルシフトといった国内の物流の変革など、港湾を取り巻く情勢は常に変化している。

四日市港管理組合では、平成21年8月に「四日市港長期構想」を策定し、概ね20年後を想定した四日市港の将来像を取りまとめるとともに、平成23年4月に平成30年代前半を目標とする「四日市港港湾計画」を改訂し、「四日市港長期構想」及び「四日市港港湾計画」で示した方向性を実現していくためのアクションプランとして、平成27年4月に「四日市港戦略計画2015～2018」を策定した。

本年度、本特別委員会は、「多様な視点からみた四日市港のあり方について」をテーマに調査活動や討議を行ってきたところであり、この度、来年度の次期戦略計画策定に向けての議会の提言をここにとりまとめるものである。

四日市港管理組合議会議員としてのみならず、三重県議会議員又は四日市市議会議員としてそれぞれの場においても、提言内容の実現に向けて、四日市港管理組合の今後の取組を見守り、応援していきたいと考える。

II 提言に向けての考え方（四日市港の将来像について）

島国である日本には多くの港があり、その中で四日市港が利用者から選ばれる港になるためには、四日市港のポテンシャルや将来像を明確に示していくことが重要である。

また、国は国際コンテナ戦略港湾や国際旅客船拠点形成港湾等の新たな港湾政策を進めており、四日市港が国際拠点港湾として、国の財源も活用し港湾整備を進めていくために、港の将来像等が重要である。

四日市港管理組合は、四日市港の将来像を取りまとめた「四日市港長期構想」と、その将来像を実現するための港湾整備の方針である「四日市港港湾計画」、それらを実現していくための「四日市港戦略計画」を策定しているが、港の将来像を考えるにあたっては、過去の計画等の中に今後の展望や取組のヒントになるものがないか、他の港との差別化を図る新たな方策がないかなどを探っていくことも重要である。

また、次期戦略計画は、四日市港が利用者や国から選ばれる港となるよう、その特色を前面に出し、港の将来像をイメージしやすくするとともに、「四日市港長期構想」や「四日市港港湾計画」をより具体化しつつ、環境変化や新たな視点からの見直しの検討がなされていることも必要である。

そのうえで、当委員会としては、後述の「Ⅲ提言」に記載のとおり、「地域」、「ヒト」、「モノ」の3つのカテゴリーに分類し、次期戦略計画の策定に向けて提言を行うものである。

Ⅲ 提言

1. 地域とともに発展する四日市港へ

【提言の背景と狙い】

現在、四日市港においては、コンテナ貨物や外貿バルク貨物を取り扱う霞ヶ浦地区が物流の中心となっているが、四日市地区にも公共上屋をはじめとして多数の物流施設が存在している。四日市地区は、市街地からも近く、歴史的・文化的な資源や運河等港ならではの景観も存在しており、集客面での価値も高いと考えるが、老朽化する港湾施設への対応も含め、同地区のめざす姿が見えてこない。

各地区には、その背後地との連携も含め、個々の役割があることから、例えば、霞ヶ浦地区は物流拠点として、機能集約等により効率的な物流環境を構築していき、四日市地区は人流拠点として、港らしい景観を生かした憩いの空間や、客船などによる観光・交流の拠点として人々が集う場としていくことが考えられる。

よって、港湾施設の集約や再配置、霞ヶ浦地区北埠頭の埋立等による港湾用地の確保も検討しつつ、各地区の役割、方向性を明確にし、それに基づいた計画的な取組を進めていくことが重要である。

さらに、四日市港の発展を四日市市や三重県の発展につなげていくことも重要であることから、四日市市や三重県としっかり連携し、取り組んでいく必要がある。

また、港の発展には、港へアクセスするための道路ネットワークが重要である。平成30年度には臨港道路霞4号幹線(愛称：四日市・いなばポートライン)が開通することなども踏まえ、国道23号の渋滞の緩和につながる南方面への道路の調査・検討等道路交通体系の整備を関係機関と連携しながら進めていく必要がある。

【次期戦略計画に向けての提言】

- ・各地区の役割について、例えば霞ヶ浦地区、四日市地区をモノとヒトの拠点という観点から整理するなど、各地区の空間利用ゾーニングの考え方を次期戦略計画でより明確に示したうえで、施策・事業に反映されたい。
- ・臨港道路霞4号幹線（愛称：四日市・いなばポートライン）の南への延伸の具体化など、港につながる道路ネットワークの充実について関係機関と連携し、取り組まれない。

2. ヒトが集まる四日市港へ

【提言の背景と狙い】

四日市港は、近年、クルーズ船の寄港が増加しており、港にヒトが集まることは、港の賑わい・地域の活性化につながっている。しかし、現在、クルーズ船は貨物船と岸壁を共用し、客船専用のターミナルもないことから、さらなるクルーズ船の寄港の増加によっては、貨物船との岸壁利用の調整や、貨物・旅客の動線などの安全面や利便性で支障が生じることが懸念される。

今後、クルーズ船の誘致・受入を一つの基軸にしていくのであれば、船会社等にも選ばれるためにも、貨物との棲み分けやそれに伴う四日市地区の活用、県内観光事業者との連携等も視野に入れた、クルーズ船誘致・受入のための明確なビジョンを示す必要がある。

また、港にヒトを呼び込む手段は、クルーズ船の誘致・受入だけでなく、中部国際空港への海上アクセス船の就航、民間の活力も活用したボートパークや付帯設備の整備、釣りやマリンスポーツ愛好者の利便性向上のための取組等多様な手段が考えられる。住民が実感として港を身近に感じられるような仕組づくりも必要であり、これらを効果的に組み合わせながら、ヒトが集まる四日市港としての取組を進める必要がある。

【次期戦略計画に向けての提言】

- ・クルーズ船の誘致・受入に際しては、客船ターミナル等必要な港湾施設を整備されたい。
- ・官民連携の視点も踏まえ、港にヒトが集うさまざまな方策に取り組まれたい。
- ・港を訪れるヒトに対しては、十分な安全対策をとるとともに、港をもっと身近に感じてもらえるよう、来港者のニーズを踏まえた具体的な方策に取り組まれたい。

3. モノが集まる四日市港へ

【提言の背景と狙い】

四日市港は石油化学コンビナートをはじめとする背後圏産業とともに発展してきた港であり、かつ、それら産業の物流の基盤である港である。

昨今はコンテナ貨物の取扱拡大に注力した取組が進められているが、背後圏産業の原材料となるバルク貨物も四日市港にとって重要なものであり、船舶の大型化やバルク貨物を取り扱う施設の老朽化等も踏まえ、今後のバルク貨物のあり方を再確認する必要がある。

また、I o T・A I等最新の情報技術を活用した物流活動の効率化や、最近のトラックドライバー不足の問題等による陸上輸送から海上・鉄道輸送へのモーダルシフトの流れに対応していくための港湾と鉄道輸送やトラック輸送などとの円滑な連携を検討するなど、昨今の情勢や将来発生が予測される事態を的確にとらえ、物流事業者等とも連携しながら、対応していく必要がある。

【次期戦略計画に向けての提言】

- ・四日市港におけるバルク貨物のあり方について、ニーズ把握も含めて検討し、方針を示されたい。
- ・モーダルシフト等昨今の情勢を的確にとらえ、対応されたい。

●四日市港管理組合港湾整備推進調査特別委員会 委員名簿

委員長	樋口博己
副委員長	芳野正英
委員	谷口周司
委員	下野幸助
委員	樋口龍馬
委員	田中智也
委員	服部富男
委員	小川政人
委員	山本勝